



き ず な



～一致団結～

## 認知症講習会を終えて

「よく聞いて、よく反応して、一生懸命勉強していますね。」

こちらが緊張してしまいました。」

と講師の先生が関先生にお話されていました。以前の福祉講演会の講師の先生方からも同様の話を聞きました。回りの方からみんなの様子は、そのように見えているようです。

講師の先生から突然、「最初のスライドのイルカが向いていた向きは、左と右のどちらでしょうか」の質問がありました。みんなからは、「左じゃない?」「絶対右!!」と声が聞こえました。正解は、「スライドにイルカはいませんでした。」と聞いたとき、「え?」と思った人がいたと思います。私は、「どうしよう。イルカ映っていた?みんなから『右だよ。左だよ』って聞こえたときは、頭の中が真っ白になりました。」

スライドには、認知症の症状や認知症を患っている人からのビデオメッセージがありました。私は、ビデオメッセージの一部の「お前が忘れても俺たちが覚えているから」が印象に残っています。認知症を治すための医療技術はまだありません。しかし、このような一言があるだけで、どれだけ安心できるか。自分のことを打ち明けたときに受け止めてくれた友人がいた。これも病気の進行を遅らせるきっかけになるだろうと思っています。

今回の講習会に参加したことで皆さんは、「認知症サポーター」になりました。困っている人がいれば、力になってください。自分一人で困ったことがあれば、回りの大人に困っている人がいることを伝えてください。

### 【感想紹介】

- ・65歳以上の人の2割が認知症だから他人事ではないと思った。自分も将来認知症になるかもしれない。今のうちにどんな症状があるのか知らなくてはいけないと思った。日常生活での言葉づかいを考え、差別や偏見をなくしたほうが良いと思った。
- ・今までは、認知症のことをあまり知らなくて、考えたりすることもありませんでしたがどんな症状があるのか、見かけたらどうやって声をかければよいかなどがわかりました。誰でもかかる可能性があることを知り、もし身近な人が認知症にかかったら、今回の講習会を思い出して、しっかり向き合えるようにしたいです。

## セーフティ教室～不審者対応訓練～

昨日の午後の時間を利用して、3学年合同のセーフティ教室を実施しました。内容に関しては、以前の学年通信に掲載しましたが、「学校に不審者が侵入した際について」話を聞く時間になりました。過去に残酷な事件があり、伊藤先生から今回の訓練の目的、自分たちができることについて聞きました。真剣に聞くことはできたでしょうか?バリケードを迅速に組み立てることができましたか?先生たちは、みんなを守るために「さすまた」を用意して校内のどこに不審者がいるか探しました。出くわしたときに、正直焦りました。学校にいるような雰囲気を出している人ではなかったです。訓練とはいえ、本当に怖かったです。生活指導主任の伊藤先生と私で、取り押さえようと試みましたが、力では敵わない。向こうは大きな声を出している。ナイフ(おもちゃ)を出してきた。恐怖は倍増。すると、三浦先生がナイフを持っている手めがけて抑えにいきました。「とった!!」の一言で、一斉に抑えにいことができました。時間としては、ものの数分だったと思いますが、とても長く感じました。三浦先生がいなかったら…。本当にそう思うような訓練でした。

みんなの教室には、そのやりとりの声が聞こえましたか?中には、恐怖を感じた人がいたかもしれません。しかし、この1回の訓練で守ることができる命が増える。私自身今回の訓練はとても勉強になりました。訓練は、本番を想定して取り組まなかったら意味がありません。本番と同じように取り組むことが大切です。二度と同じような悲しい事件を繰り返してはいけません。自分たちができることをしっかりやりましょう。



### 訓練の手順

- ①不審者役は(警察官)。校内のどこに出没するかは不明
- ②怪しい人物を見つけた教員・生徒は、丁寧に声をかける。
- ③不審者とわかったら、教室の内線で職員室へ連絡。
- ④職員室より全校放送「マーク先生。〇〇へお越しください」
- ⑤放送が聞こえたら…  
職員室の教員→現場へ。(撮影担当教員が各クラスへ中継)  
各クラス→鍵を閉め、男子はバリケードの設置、女子は窓際。窓際へ座る女子の周りを男子が囲む。息を潜める。

### 私達にできること

- ①危機意識を高め、日頃から備える。  
・日頃から周囲に関心を持つ  
・おかしな人はいないか  
・非常ボタン、消火器、出口、AEDはどこにあるか、時々確認する。  
・どこか席を外す場合は誰かに伝え、所在を明らかにする
- ②侵入を許さない  
・正門をこまめに閉める

不審者が出た場合  
校内放送で暗号を使います。

「マーク先生、マーク先生、〇〇へ  
お越しください」

〇〇は不審者が出た場所